

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	武雄市立朝日小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<p>①【学力向上】…ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを校内研究の柱とし、発達障害やその傾向にある児童を含めた全ての児童にとって、楽しく「わかる」「できる」学習指導の在り方を探ってきた。授業研究会を重ねていくことで職員の授業づくりへの意識が高まってきている。しかし、各種学力調査の結果より一層基礎基本的な学力の定着を図るために、指導法の形態やクロムブックの活用を工夫して、実効性のある手立てを考え、実践していく必要がある。</p> <p>②【心の教育・健康、体づくり】…いじめ防止に対する組織的な体制はできているが、早期発見、早期対応については課題が残る。来年度も、学級経営の安定を図ることを第一に、いじめ防止につながる心の授業や構成的エンカウンターなど継続的に実施していく。健康、体づくりについては、コロナ禍の中、スポーツチャレンジや縦割り班活動は十分にできなかったが、昼休み外遊びの奨励や「みんなでウォーキング」、学年ドッジボール大会、サガン鳥栖サッカー教室など、できる時期に様々な活動に取り組んできた。今後子どもたちがより一層運動に親しむ機会を作っていく。</p> <p>③【コミュニティ・スクールの充実】…コロナ禍において制限がある中、できる範囲で地域との連携・交流を生かした体験活動を行ってきた。来年度は、新幹線開通に関連した活動や新公民館、あさひ子ども園との連携交流など、子どもたちが主体的に地域と関わることができる学習課題を設定していく必要がある。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	自己有用感をもって主体的に学ぶ朝日っ子の育成 ～校訓「元気で勉強 みんな仲よし」～
----------	---

3 本年度の重点目標	①全員参加のわかる授業（基礎学力の定着） ②志を高める教育活動の推進 ③特別支援教育の充実 ④感謝と思いやりの心の育成 ⑤いじめの未然防止と早期発見対応 ⑥運動週間の改善や定着化 ⑦危険回避能力の育成（防災教育） ⑧愛郷心の育成 ⑨幼保小連携 ⑩教職員の資質向上と業務改善（働き方改革）
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

共通評価項目	重点取組			中間評価		最終評価		学校関係者評価		
	評価項目	取組内容	成果指標（数値目標）	具体的取組	進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践		●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教員90%以上。 ○「電子黒板やクロムブックを活用し、わかりやすい授業づくりを行っている」と回答した教員100%。	・マイプランの成果指標となっている「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.1,2」を踏まえた授業作りを取り組む。 ・一人1台端末を効果的に活用した授業作りについて、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・マイプランの成果指標を踏まえた授業づくりに取り組んでいる職員は96.5%であり、ほぼ全員が授業の改善を図っている。 ・電子黒板は100%の職員が活用しているが、クロムブックを活用した授業づくりができているとした職員は71.5%であり、今後のさらなる取組みが課題である。	B	・マイプランの成果指標を踏まえた授業づくりに取り組んでいる職員は95.7%であり、ほぼ全員が授業の改善を図り児童が楽しく主体的に学ぶ授業を創造している。 ・電子黒板は100%の職員が活用しているが、クロムブック(端末)を活用した授業づくりができているとした職員は73.9%であった。端末を効果的に取り入れた授業づくりは今後の課題であるが、学級閉鎖等でのリモート授業では大いに活用されている。	B	・教職員のアンケートから、教職員が一丸となって児童の学力向上への熱意と意欲が感じられる。 ・少人数授業の場の確保をお願いしたい。 ・クロムブックを十分に活用できる環境が必要。 ・我々の時代とは違う先進的な授業内容を周知理解してもらえることは家庭の学習、もしくはその関心につながるのではないかと。
	○どの子どもも楽しく「わかる」「できる」授業づくりの実践～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり～（校内研究の充実）	○ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりを心掛けている」と回答した教員100%、「勉強がわかる、できる」と回答した児童80%以上。 ○12月県学習状況調査（4～6年）において平均正答率が県の到達基準を上回る学級が5割以上。 ○CRT学力検査（1～3年）における平均正答率が武雄市平均正答率を上回る学級が8割以上	・ユニバーサルデザイン3つの視点による授業づくりチェックリストと「ユニバーサルデザインの展開に努めている」と回答した職員は、100%であった。校内研修や授業研究会の取組により職員の授業改善への意識が高まってきているといえる。今後は、更に日々の授業実践の中でチェックリスト等を活用し、授業改善を図ることができるようにしたい。 ・年度初めから、学習部、学力向上担当及び学級学習についての取組を行っている。今後は、昨年度12月県学習状況調査やCRT学力検査における課題及び今年度全国学習状況調査における課題を生かし、更に学年・学校全体で共通した取組を行っている。	B	・「ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、全ての児童にとって、楽しく『わかる』『できる』授業の展開に努めている」と回答した職員は、100%、「基礎的・基本的事項の徹底を図っている」と回答した職員に100%であった。また、「授業の内容がわかる」と回答した児童は、約92%であった。これらの結果から、校内研修や授業研究会等の取組により、全職員が日々の授業改善に取り組んでいることが分かる。 ・年間を通して、学力向上担当及び学力向上推進教員と連携を図りながら、学力向上に関する研修等の取組を行ってきたことで、12月県学習状況調査国語科（4～6年）社会科（6年）の平均正答率が県の到達基準を上回る学級が5割以上となった。また、CRT学力検査算数科（1～3年）の正答率が武雄市の平均正答率を上回る学級が5割以上となった。今後、12月県学習状況調査及びCRT学力検査における課題の分析を共有し、次年度に向けた授業改善に取り組んでいくことが大切である。	B	・児童が楽しく「わかる」「できる」環境作りに対する教職員の努力が、各種アンケートの結果から伺える。 ・学力の目標に、平均正答率を上回るなど他者との比較の目標はどうかと思う。成果を出しても目標達成にならない場合も出てくるのではないかと。			

●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「心の教育を行い、思いやりの心を育てている」と回答した教員100%。 ○「思いやり・生命尊重」の項目で「できる」と回答した児童85%以上。	・自己有用感を高める4ポイントの実践 ・命や人権について考える学習の充実(平和集会や人権旬間内容の充実) ・グリーン録運動やボランティア活動の充実 ・ふれあい道徳や道徳の授業の充実を図る。	B	・「自己有用感を高める4つのポイントを意識して実践できている。」「心の教育を行い、思いやりの心を育てている」と回答した教員は94.26%とおおむね達成できている。 ・「思いやりの心・協力ができている」児童は93.8%とおおむね達成できている。 ・夏季休業中、SDを講師に「自己有用感を高める指導支援の在り方」について全職員で研修を行い実践に繋げている。 ・白い羽根募金寄附やプルタブ回収などのボランティア活動やグリーン活動は常時活動として定着している。	A	・「心の教育を行い、思いやりの心を育てている」と回答した教員は95.5%とおおむね目標に届いている。 ・保護者参観によるふれあい道徳を実施したり、道徳の授業で学習したことを学校便りで保護者に知らせたり、充実を図った。 ・「思いやり・生命尊重」の項目で「できる」と回答した児童は93.4%で十分達成している。 ・保護者の95.5%が「学校は互いの良さを認め合う学級づくりをしている。」と回答していることから、教員による「自己有用感を高める4ポイントの実践」の「認め合う場の設定・活躍の場づくり」などに取り組んだ効果が反映していると考えられる。	A	・R4年度人権標榜の市長賞に輝いた本校児童の作品にも表れているように、人権意識の高揚にしっかりと取り組んでおられ素晴らしい。 ・子ども達の思いをじっくり聞く時間の確保を。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「なかよしアンケート」で「学校が楽しい」と回答した児童90%以上。 ○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員90%以上。	・全学級共通の教材を活用し(生徒指導部作成)、いじめに関わる道徳の授業を行う。(いじめを生まない風土作り) ・なかよしアンケートや日常観察によりいじめと疑われる事案を発見した場合は、すぐに学年間で共有し、丁寧に聞き取り、対応する。(学年主任→生徒指導主任→教頭・教務一学校長 とチームによるライン対応を行う。)	B	・いじめに係わる道徳の授業を作成し、全学級で授業を行った。 ・アンケートの結果「学校が楽しい」と回答した児童は89.3%となったが、「クラスで安心して過ごせる」と答えた児童96.2%となり、学校が安心して過ごせる場所となっている。 ・なかよしアンケートを毎月継続して行った。ICTを活用することで、学年で結果を共有し、素早く対応することができた。また、アンケート結果の変化を分析することで、学級風土をつくるための手立てを全学年の職員で考えることができた。 ・いじめ防止等における組織的対応ができていると回答した教員100%。引き続き教員間で情報共有していく。	B	・アンケートで「学校に来るのが楽しい」と答えた児童は89.4%、「クラスで安心して過ごせる」と答えた児童は96.9%であった。目標には届かなかった。また、「学校に来るのが楽しい」と感じられない10.6%の児童に対してどのようにアプローチしていくのか、来年度の課題である。 ・なかよしアンケートを毎月継続して行った。ICTを活用することで、学年で結果を共有し、組織的に素早く対応することができた。また、アンケート結果の変化を分析することで、どの学年がどのような風土があるのかを把握することができ、指導に生かすことができた。分析結果は来年度に引き継ぎ指導に生かしていく。「いじめ防止等における組織的対応ができている」と回答した教員は100%であった。	A	・目標が「なかよしアンケート」で「学校が楽しい」と回答した児童90%以上とあるが、「楽しくない」を10%認めることになるので、目標は100%で。 ・いじめはいくつもの要因が積み重なって起こるので、先方がアンケートを広げられる時間を確保してほしい。 ・いじめの問題は、学校側がどうも神経を使われていると感じている。 ・昨年引き続き、組織としていじめ対応が確立されているのは素晴らしい。
	○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「児童が主体的に取り組めるように、学級活動や学校行事の内容を工夫している」と回答した教員100%。	・これまでの実践や今年度取り組みを提案する。その際、取り組みやすいように学年に応じた話し合いの型、議題なども紹介するようにし、情報共有の機会を設ける。 ・異年齢集団活動を(縦割り班活動や異学年交流の実施する。	B	・「児童が主体的に取り組めるように、学級活動や学校行事の内容を工夫している」と回答した職員は100%であり、学級活動の取り組みや実践を紹介した効果が少しずつ表れている。一方で、「児童が自分で決められる」場面を設定する」に関しては82.1%ができていると回答しており、目標に届いていない。具体的な取り組み方を紹介したり、情報を共有したりする時間を設けた。 ・学年や学級単位で異学年交流に取り組み、それぞれの学年の良さを伝えたり、感じさせたりすることができた。6年生の「きらり12」を達成させるための総合的な時間の取組は、全校児童に良い影響を与えている。	B	・「児童が主体的に取り組めるように、学級活動や学校行事の内容を工夫している」と回答した職員は96%であり、学級活動の取組や実践を紹介した効果が少しずつ表れているが、目標には届いていない。取り組みやすい実践を紹介するなどの工夫を今後行っていくべきである。一方で、「児童が自分で決められる」場面を設定する」に関しては100%ができていると回答している。具体的な取り組み方を紹介したり、情報を共有したりする時間を設けた効果が少しずつ表れている。 ・できる範囲で学年や学級単位で異学年交流に取り組み、学年の良さを伝えたり、感じさせたりすることができた。6年生の「きらり12」を達成させるための総合的な時間の取組で、関わることの良さや大切さを伝えることができていた。	B	・児童に夢や目標を持たせることは大切なこと。保護者アンケートから見ると、もう少し夢や目標を持たせる活動を仕組む必要がある。
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童80%以上	・児童と運動のかかわりを深める体育科学習の充実と外遊びの奨励。 ・委員会活動によるスポーツチャレンジの実施と学級での取組の充実。	B	・児童アンケートより「進んで運動をしたり、体を動かす遊び(外遊び)をしたっていますか」の項目で「できている合計」の割合が84.0%とこれからも体力向上の取り組みを仕組む必要がある。 ・体育科の授業や委員会を中心としたスポーツチャレンジの実施を通して、運動の楽しさや学校全体で運動をできる機会を作っていくように、今後実践していきたい。	B	・児童アンケートより「進んで運動をしたり、体を動かす遊び(外遊び)をしたっていますか」の項目で「できている」が85.5%であった。これからも体力向上の取組を仕組む必要がある。 ・体育科の授業や委員会を中心としたスポーツチャレンジの実施を通して、運動の楽しさや学校全体で運動する機会を作ることができた。 ・昼休みに校内なわとび等の練習期間を設けることで、普段外遊びをしない児童が外に出る機会になった。これは、職員間での情報共有によりコロナ対策を講じることができ、新たな取組ができたと考えられる。	B	・児童のアンケート結果から体づくりの向上に取り組んでおられることは評価するも、結果として児童に反映されていないのが残念。 ・2024年には佐賀で国スポーツの開催があるので、児童にスポーツのおもしろさを伝えもっと興味をもってもらいたい。
	○危機回避能力の育成	○「感染症や災害に備えた防災教育や命を守るための安全教育を行うことができた」と回答した教員100%。	・安全・防災教育年間計画を作成し、適切な時期に効果的な安全・防災教育を行う。 ・計画した安全・防災について、それぞれ授業用のパワーポイントを作成する。そのことで、全ての教室で共通実践がなされ、さらに指導が毎年蓄積されるようにし、全職員、全児童の安全、防災に対する意識の向上を図る。	B	・「感染症や災害に備えた防災教育や命を守るための安全教育を行うことができた」と回答した教員100%を達成することができた。避難訓練や水害、大雨の防災指導の際にはパワーポイント教材を用意し、全学級で共通した指導を行い、防災や命を守る意識を高めることができた。今後、内容をさらに充実させ、来年度以降も効果的な指導ができるよう、資料を残し、改善を加えていきたい。	A	・年間を通して「感染症や災害に備えた防災教育や命を守るための安全教育を行うことができた」と回答した教員100%を達成することができた。避難訓練や水害、大雨の防災指導用に作成したパワーポイント教材を、本年度の実践を踏まえ改善した。全学級で同じ教材を使って指導する効果を感じている。 ・不審者避難訓練・地震・火災避難訓練では警察や消防署の方を呼び、アドバイス頂いた。今年度の反省をもとに改善を加え、適切な訓練が行われるようにしていきたい。 ・4年生では武雄消防署、市防災減災課、消防団の方を講師としてお招きし体験型の防災学習を行った。大変充実した内容で、児童の危機回避能力の向上に繋がった。来年度以降も継続していきたい。	A	・徹底した児童への防災教育は非常に良いことである。 ・朝日町は水害のリスクがある地域なので、防災教育はとても重要。今後も色々な防災教育を継続して進めてほしい。 ・体験型の取組は、学校外の団体との共同で開催され、教育大綱「校む」に沿っているし、児童の心に残る活動であるので、ぜひ継続してほしい。

<p>●業務改善・教職員の働き方改革の推進</p>	<p>●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減</p>	<p>●教育委員会規則に掲げる時間外在外稼働時間の上限を遵守する。</p>	<p>・全職員の平均が45時間以内になるよう、毎日19時までの退勤を目指し、声をかけたリポードに可視化したりする。 ・グーグルフォームによるアンケート調査やセイトネット掲示板の活用。 ・教職員が協働的に学び合う体制や教職員が互いに円滑なコミュニケーションをとれる雰囲気作り・連携作りを行い、働きやすい職場風土をつくる。</p>	<p>B</p>	<p>・4月と6月は時間外勤務時間の平均が45時間を超えてしまっていたが、8月までの総平均は45時間以内であった。しかし、業務内容の精選・分担を意識して業務にあたっていただけると答えた職員は85.7%で、今後も改善が必要である。 ・いじめ、体罰アンケートや夏休みプール開放アンケート等については、全てグーグルフォームを活用することができ、業務改善及び迅速な対応につながった。セイトネット掲示板の活用も浸透してきた。 ・「組織の一員として働きやすい環境づくりや信頼関係づくりに貢献している」と答えた職員は96.5%で、同僚性が高く、活気のある職場風土となっている。</p>	<p>A</p>	<p>・4月から12月までの時間外勤務時間の平均は35.2時間であり、前年度比15%削減することができた。学年主任を中心に各学年で業務の分担をしたり、職員間で定時退勤日の呼びかけをしたりとボトムアップによる業務改善風土の醸成ができてきている。中間評価と同項目のアンケートは、96.2%に向上した(R3年度より3.3%↑)。 ・セイトネット掲示板やクロームブックのクラスルーム、共有ドライブ等の活用により、資料や教材、アプリの共有化が図れ、業務の効率化が図れた。 ・「職場が意欲的に取り組める環境にある。意欲を発揮している組織になっている」と答えた職員は100%で、勤務意欲や同僚性が高く、活気に満ちた職場風土となっている。</p>	<p>A</p>	<p>・業務の効率化の徹底により昨年度より教職員の時間外勤務が減少したことは非常に良いことである。 ・学校閉庁日や始業式、入学式、卒業式の日程などは学校の実状に合わせて変更してよいと思う。 ・勤務時間外の対応はされなくて良いと思う。 ・先生方がやりたいことをやれる時間の確保を。 ・教員のアンケート結果より、勤務意欲や同僚性が高い職場と考えられる。そういった学校で学べる幸せ、その職場で過ごすことのできる児童の様子をより多くの地域の方に知ってほしい。</p>
---------------------------	-----------------------------	---------------------------------------	---	----------	---	----------	---	----------	---

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提案
<p>○特別支援教育の充実</p>	<p>○全職員での情報共有と校内支援体制の確立 ○外部機関との連携、専門研修の充実 →即個別実践化</p>	<p>○特別支援に関する専門性が向上したと答えた教員90%以上 ○情報共有を定期的に行う(全職員月2回、特別支援チーム月1回)。</p>	<p>・年5回以上、特別支援教育に関わる研修会や外部機関との支援会議、巡回指導を実施し、理解したことを即実践につなげる。 ・月に1回(クラブ活動の時間)、特別支援チームの研修の場を設定し、チームで対応・対策を考える。 ・校内支援委員会を中心に、職員連絡会やケース会議でも定期的に全職員による情報共有の機会を設ける。</p>	<p>B</p>	<p>・SC.SSW、市子ども相談係、西部教育事務所、ST、放課後フリースペース、スクラム、特別支援専門教師、特別支援学校等、様々な外部講師に依頼いただき実践的な研修を行っている(前期で5回以上)。外部機関と協働による支援体制を作り、支援会議をもとに指導支援につなげている。(特別支援教育の専門性が向上した。組織的に対応している)と答えた職員100% ・月に1回(クラブ活動の時間)が特別支援に関する専門性の向上できる時間になり、児童の様子を共有し、相談したりする場になり有効に活用できている。 ・夏休み全職員で外部講師による研修を行い、応用行動分析の考えを基にした対応について学び、指導力の向上につなげた。 ・校内支援委員会や各学年で情報共有は月2回はできているが、全職員での情報共有は月2回はできていないので共有方法を考えていく。</p>	<p>A</p>	<p>・「特別支援教育の専門性が向上した。組織的に対応している」と回答した職員100%、外部機関と連携しながらチームとして国の支援・指導について考え改善を図っていると回答した職員100%を達成することができた。前期に続き、後期も外部から講師からの研修を行った。また外部機関との協働による支援体制作り、支援会議をもとに指導支援もしている。 ・校内研究で、特別支援学級全学級の授業公開を行い、自立活動やユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業について、担当教員だけでなく全教員の指導力の向上につながった。支援学級に対する理解も深まった。 ・月一回(クラブ活動の時間)特別支援チームによる研修の場を設定したことで、児童の様子を共有したり、学級経営や指導支援、授業づくりの改善点など話し合ったりすることができ、大変有効であった。 ・校内支援委員会や職員連絡会時に気になる児童の情報共有が行うことができ、学年や学校全体で児童対応を考えることができた。</p>	<p>A</p>	<p>・特別支援教育充実の体制により、児童の特性を良く把握ししっかりと教育指導に取り組んでおられることが素晴らしい。 ・特別支援教育の時間や教室(スペース)の確保が大切。 ・児童数が多い学校なので、大変さを感じる。指導員、支援員の確保を。 ・情報共有や専門性の向上と従来以上に取組が充実している。 ・幼児教育の立場からは、児童の情緒の安定に繋がる教育は、「学びに向かう力」に直結するので、通常学級のクラス運営や学力向上にも繋がると考える。</p>
<p>○愛郷心の育成</p>	<p>○地域人材の活用と体験や交流、発信活動の充実</p>	<p>○「武雄市や朝日町が好きだ」と回答する児童80%以上</p>	<p>・新幹線開通に関連した活動やあさひ公民館、あさひ子ども園や老人会との連携交流、など、子どもたちが主体的に地域と関わることができる学習課題を設定する。</p>	<p>B</p>	<p>・HPはほぼ毎日更新し、教育活動を情報提供している。 ・2年生によるあさひ子ども園との交流や3年生のキュウリ農家見学、4年生の社会福祉体験、5年生の農業体験、5年生の裁縫学習など地域人材を活用した学習に取り組むことができていた。 ・地域人材の効果的な活用を図っている職員は75.1%、児童が郷土の良さを発見できる指導を行っている職員は64.3%であり、比較的低い。 ・新幹線開通の機会に集委員会による「新幹線集会」をしたり、朝の時間に新幹線に関する豆知識を放送したりした。</p>	<p>A</p>	<p>・HPはほぼ毎日更新して教育活動を情報提供し、保護者や地域社会に朝日小について理解してもらう機会の一環を担っている。 ・1年生の老人クラブやあさひ子ども園との交流、2年生のあさひ子ども園との交流、4年生の防災学習、5年生の農業体験や裁縫学習など地域の諸団体との体験活動に取り組むことができた。 ・地域人材の効果的な活用を図っている職員は95.6%、児童が郷土の良さを発見できる指導を行っている職員は87.0%であり、中間評価と比較して、大きく伸びている。 ・6年生は修学旅行の際に、新幹線を利用して長崎へ行き、武雄市の新幹線開通を体感することができた。</p>	<p>A</p>	<p>・今年度もコロナ禍の中に、地域と学校が一体となって各種事業に取り組んでおられることは非常に良いこと。 ・地域との交流は、学校が何を必要としているかの視点でいとはやれ、地域はやれることを協力を。逆にいれないとはやれないとお互いに見える関係になりました。 ・朝日町は歴史深い町であることも児童に伝えてはどうか。 ・朝日町の既存の人的資源を有効に使ってほしい。 ・体験活動は児童にとって代え難いと価値があると考える。その価値を他の教科(算数など)へのつながりや学力向上に活かされていることが体系化・見える化できれば、体験活動=学習活動となり、児童の学習に対する意欲向上、地域の自己有用感に繋がるのではないかと。 ・あさひ子ども園との幼児小連携の取組はかつて無い頻度と内容で取り組んでもらった。今後も管理職だけでなく教員同士の参観、意見交換を継続してほしい。</p>

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

<p>5 総合評価・次年度への展望</p>	<p>・学校教育目標、目指す児童像「きりり12」に繋がる各部会の取組や各学年学級の活動が、学校力の向上に繋がった。「自己有用感」が高まることで自分に自信が生まれたり、友達と協力できたり、学習意欲や自主・自立的な態度に繋がる。次年度も「自己有用感を高める4つのポイント」の徹底実践を積み重ねながら、様々な課題の根底部分の改善、問題行動の未然防止に繋げていきたい。 ・特別支援教育面では、専門性を高めるための研修を多く重ねたり、外部機関との強固な連携を図りチームで支援にあたりたりしてきたことで、特別支援教育の充実が図られ、児童の落ち着いた繋がった。 ・学力向上面では、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを校内研究の柱とし、授業改善を行ってきたが、毎時間の目標達成のために一斉指導と個別最適な学び、協働的な学びをいかに仕組んでいくかを追究していく必要がある。授業を通して、児童が自ら課題を見つけ、主体的に解決しようとする力の育成を図ってほしい。</p>
-----------------------	---